

凡例 ・：意見 ⇒：回答

第4回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会ワーキング 議 事 概 要

事項	第4回 丹波東部(竹田川流域圏)地域 総合治水推進協議会ワーキング	出席者	ワーキング構成員：15名 (縣市関係部局・事務局除く)
日時	平成28年2月25日(木) 14:00~15:30	場所	たんば黎明館2階多目的ホール
内容	1 開会 2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱の変更について 3 議事 3-1 「丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画(H26.3)」のフォローアップについて 3-1-1 丹波東部地域の取り組み状況(報告) 3-1-2 県下における総合治水の取り組み(情報提供) 3-2 意見交換 4 その他 5 閉会		
資料	【配付資料】 議事次第、出席者名簿、配席図 資料-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱 資料-2 丹波東部地域の取り組み状況 資料-3 県下における総合治水の取り組み 参考資料-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画(概要版)		

1 開会

丹波土木事務所 所長補佐より開会のあいさつを行った。
事務局より、県民構成員の紹介を行った。

2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱の変更について

事務局より、「丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱」の変更について説明を行い、了承を得た。

3 議事

3-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画のフォローアップについて

3-1-1 丹波地域の取り組み状況(報告)

事務局及び県・市関係各所より、丹波東部地域の取り組み状況について報告を行った。

3-1-2 県下における総合治水の取り組み(情報提供)

県(総合治水課)より、県下における総合治水の取り組みについて説明を行った。

＜意見交換＞

主な意見

(1) 河川・下水道対策について

・黒井川の改修について、昨年度も話をしたが、早急にお願いしたい。また、昭和 58 年の雨量から流量を決めたと聞いているが、船城田んぼから黒井川へ流す流量は何%なのか、その流量に対して現在の川はどれくらいの水が流れるのか、教えてほしい。(県民 構成員)

⇒黒井川の改修については、事業は継続しており、引き続き予算措置に努めていきたい。計画流量、及び現況流量が計画流量に対して何%なのかについては、確認し、後日回答する。(県関係部局)

・友渕川について最上流部は川幅が狭くなり、草が生い茂り、川を視認できない。維持管理をお願いしたい。(県民 構成員)

⇒河川上流部の維持管理については、各地区から要望が出ている。現場を確認し、対応を協議させていただく。(県関係部局)

・地域住民からの要望事項も総合治水計画に反映させてほしい。(県民 構成員)

・河川整備計画と、河川整備基本方針について、総合治水の中に河川整備計画も掲載すれば全体像が見えるのではないか。(オブザーバー)

⇒由良川水系竹田川圏域河川整備計画については、現在検討中であり、まとまったところでご報告させて頂きたいと考えている。(座長)

(2) 流域対策について

・スギ・ヒノキの間伐推進について、計画通り進んでおり安心している。間伐において林道があれば重機が入るので助かるが、整備をしても雨の度に道が崩れて間伐材や土砂が流れていく。主要な林道は、コンクリート舗装としてほしい。(県民 構成員)

⇒間伐において、最近の間伐材の持ち出し販売が進んでいる。搬出のためには林道・作業道が必要である。急勾配であれば、コンクリート舗装を施すようにしている。また、線形決定や施工方法の指導により、できるだけ壊れにくい作業道となるよう指導している。(県 構成員)

・個人で皆伐する人もいる。皆伐すると、斜面上部まで重機が入り、道ができるが、土砂が他の道や下流の川に入りせき止める等、山に悪影響がある。民間はどういう形で道を作ってもよいのか？規制するのは問題があるかもしれないが、ある程度皆伐や林道設置の指導をお願いしたい。(県民 構成員)

⇒個人の皆伐については減少しており、森林所有者の意識、伐採請負業者の意識にかかっているが、農林振興事務所として、防災面からの指導をしていく必要はあると考えている。(県

構成員)

- ・山から流れる土砂・水をどう食い止めるのか。この計画に治山・砂防をどう盛り込むのか？
(県民 構成員)

⇒計画策定後の災害について、次回の中見直し時に反映していきたいと考えている。(座長)

- ・実証実験について、都賀川流域の大学のグラウンドを全て校庭貯留に使ったらどのくらいピーク流量が減るか、調査したところ、20%低減することが判明した。それに対し、各戸貯留は数%程度だが、効果はあり、流出抑制にはなる。流域により特性が異なるため、定量的にどのくらいの効果があるのか、検討してほしい。(オブザーバー)

⇒定量的な効果については、田んぼダムの効果の実証実験として直近の水路でのピーク流量の低減効果を検証するなどの取り組みを行っているが、河川への効果などについては、流域に締める流域対策の取り組みが少ない中で、今後どのように定量的に示していくかは、課題であると考えており、当面は、直近の水路等への効果などになるが、今後また、ご教授頂きたい。(県関係部局)

- ・ため池洪水前水位低下について、どの程度現実性をもって行えるか、ルール作りが必要ではないか。本当に水位を下げられるのか。(オブザーバー)

⇒ため池事前放流ルール作りについて、2年前に検討会を行った。事前放流には、大雨前の直前放流と期間放流の2種類あるが、丹波管内では期間放流で取り組むことになると考えている。期間として、丹波地域では田んぼで水を使用しない9月頃から水位を下げるなど、できる範囲でご協力いただきたいと説明している。また、春(3月20日)までに満水に戻すためにはどのくらいまで水位を落とせるかを集水面積とため池規模(満水面積)から読み取る目安表を作成している。1/2 濁水の場合、1/50 濁水の場合など何種類か作成し、皆さんで判断してほしい、と説明している。また、効果について、例えば谷に1つのため池で水位を落としても、それほど効果はない。どう皆さんにご理解いただき、どう見せていくかはこれからのテーマと考えている。(県 構成員)

(3) 減災対策について

- ・CG ハザードマップについて、三次元的にCGに見えるようにすべきではないか。(オブザーバー)

⇒CG ハザードマップの画面において、ビデオカメラのマークをクリックすると、浸水範囲がどのくらいの水位になるか、動画が流れる。コンピューターグラフィックで作成しており、CGと呼んでいる。(県関係部局)

閉会

(以 上)

第4回 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会
ワーキング出席者名簿

(順不同、敬称略)

属性	氏名	役職	出欠	代理人氏名・役職
兵庫県	足立 寿伸	丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事	出席	
	中野 光雄	丹波県民局丹波土木事務所復興事業室長	出席	
	横山 一也	丹波県民局丹波土木事務所副所長	欠席	
	宮本 健一郎	丹波県民局丹波土木事務所所長補佐(企画調整担当)	出席	
	小野山 直樹	丹波県民局丹波農林振興事務所副所長	出席	
	中谷 毅	丹波県民局丹波農林振興事務所 篠山土地改良事務所所長補佐(土地改良担当)	出席	
	近藤 貴彦	丹波県民局県民交流室室長補佐兼総務防災課長	出席	
流域圏市	近成 和彦	篠山市まちづくり部 地域整備課長	出席	
	竹見 聖司	篠山市農都創造部 農都環境課長	出席	
	西牧 成通	篠山市市民生活部 市民安全課長	出席	
	荒木 耕作	丹波市建設部 河川整備課長	出席	
	小森 康雅	丹波市生活環境部 ぐらしの安全課長	代理出席	森本 英行 丹波市生活環境部 ぐらしの安全課防災係長
	細見 勝	丹波市産業経済部 農林整備課長	出席	
県民	山崎 義博	篠山市自治会長会理事(西紀北地区)	出席	
	前川 行雄	丹波市自治会長会理事(春日地区)	出席	
	余田 正孝	丹波市自治会長会理事(市島地区)	出席	

議事録確定署名人

座長 丹波土木事務所所長補佐(企画調整担当)

宮本 健一郎

丹波土木事務所 まちづくり参事

足立 寿伸